

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
専門学校中央医療健康大学 校	平成21年3月25日	鈴木 啓之	〒 422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金6-7-15 (電話) 054-202-8700																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人鈴木学園	昭和43年11月9日	理事長 鈴木康之	〒 411-0036 静岡県三島市一番町15-35 (電話) 055-971-1833																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
医療	医療専門課程	歯科衛生学科	平成 6(1994)年度	-	令和 2(2020)年度																														
学科の目的	教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神に則り、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、次に掲げる事項を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため、組織的な教育を行う。 (1)歯科衛生士法(昭和23年7月30日法律第204号)に基づく歯科衛生士の養成に必要な科学的知識・技能の教授																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	歯科矯正、インプラント、審美歯科ホワイトニングなどの臨床科目や高齢者、摂食嚥下支援実習など医療連携を意識した実践力を育成する 歯科衛生士国家資格取得可能																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 112 単位	49 単位	36 単位	27 単位	0 単位	0 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
105 人	97 人	0 人	0 %	4 %																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>31</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>27</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>90</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>特になし</p> <p>(令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和7年度卒業生) 歯科診療所</p>							■卒業者数(C)	32	人	■就職希望者数(D)	32	人	■就職者数(E)	31	人	■地元就職者数(F)	27	人	■就職率(E/D)	97	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	90	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	97	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	32	人																																	
■就職希望者数(D)	32	人																																	
■就職者数(E)	31	人																																	
■地元就職者数(F)	27	人																																	
■就職率(E/D)	97	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	90	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	97	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -</p>																																		
当該学科のホームページURL	<p>学科ホームページ https://www.suzuki.ac.jp/chuoiryo/dental/</p> <p>学園ホームページ http://www.suzuki.ac.jp</p>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>112 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>							総授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	112 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	20 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	20 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	20 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位
総授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	112 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	20 単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																																		
うち必修単位数	20 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	20 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>4 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3 人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	4 人	計	4 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	4 人																																		
計	4 人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会を通して、出た意見を出来る限りその年度の授業に反映していく。
また、学科内で情報を共有し適宜カリキュラムの見直しを行う。
- ・授業外で企業と連携した特別講義を実施するなど、常に新しい知識と技術が習得できる時間を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・教育課程編成委員会は、各学科に配置し、学科の教育内容について意見を交換し、または協力して、教育の質の向上に努める。
- ・各学科の教育課程編成委員会で検討された内容は、本部に報告される。
- ・専攻分野を越えて活用が可能な企業連携の在り方は、学園全体で情報の共有を図り、また協議して、教育の質の向上に努めるため、学校には教育検討会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
望月 亮	一般社団法人 静岡市清水歯科医師会	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	①
矢部 高子	静岡県在宅歯科医療推進室	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	③
鈴木 啓之	専門学校中央医療健康大学校 学校長	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	—
大石 法子	専門学校中央医療健康大学校 教頭	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	—
櫻井 美与子	専門学校中央医療健康大学校 歯科衛生学 学科長	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、3月)

(開催日時(実績))

令和07年度第1回 令和7年10月2日 15:00～17:00

令和07年度第2回 令和8年2月19日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<意見>

- ・社会ニーズに合わせた歯科衛生学としてのカリキュラムの見直し 教育におけるSNS,動画コンテンツの活用
- ・社会人教育の必要性
- ・復職支援、歯科衛生士の職業意識の向上

<活用状況>

- ・カリキュラム改定は令和8年度中に検討実施。全体として教育の質を落とさず時間数、時期の見直しを検討整理していく。
- ・歯科衛生学における歯科衛生士のSRP時の浸潤麻酔についてなど、学生に情報の精査、新しい情報の発信する力をつけていく。
- ・6月歯の衛生週間イベント参加、職業告知イベントの実施

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・学内で学ぶことができない歯科臨床の実際及び歯科衛生士業務の実際等を、実習指導者の指導の下、実習体験を通し歯科衛生士業務の知識技術および態度についての学びを深める。
- ・臨地実習前には、臨床実習指導者会議を開催し、実習指導歯科医師・歯科衛生士に出席してもらう。学生の動向、各実習目的と内容、評価方法、実習の課題等について話し合う。
- ・実習施設・事業等において、実習期間中に実習指導者及び管理者、教員、学生の3者で、臨地実習の進捗状況と課題提出、実習項目内容、および実習における態度意欲について話し合う。
- ・臨地実習の施設における実習では、担当利用者を担当し、一連のケアを実施し、学生個人の課題解決に向けて、考える場を持つ。
- ・就職に向けて、実習施設・事業所等と情報共有し、就職指導につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・各歯科医院、総合病院、高齢者施設等にて、実際の治療の流れの見学、項目に沿ったレポート記載、各実技項目を指導者のもとに実施する
- ・学修成果の評価は身だしなみ、態度や歯科衛生士として必要な知識、技術を評価表にて評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
臨地実習Ⅰ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	・歯科医院における見学実習を行い、歯科治療の流れ、歯科衛生士の役割のを概要を学ぶ ・地域歯科保健活動(歯と口の健康週間行事)に参加し、地域における歯科保健活動を学び、多職種との協働を学ぶ	登録歯科医院 静岡・清水・藤枝・島田歯科医師会
臨地実習Ⅱ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	・歯科医院における診療の流れを理解し、各診療の介助の実践を通して歯科臨床を学び、歯科衛生士業務の基本動作および態度を修得する。 ・地域歯科保健活動(歯と口の健康週間行事、学校歯科衛生活動、障害者施設歯科衛生活動)を通じて歯科衛生支援を行う	登録歯科医院 清水歯科医師会 静岡県歯科衛生士会 静岡市内障がい者施設 静岡市内中学校・放課後児童クラブ
臨地実習Ⅲ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	・歯科医院における診療の流れを理解し、各診療の介助の実践を通して歯科臨床を学び、歯科衛生士業務の基本動作および態度を修得する。 ・地域歯科保健活動(歯と口の健康週間行事、学校歯科衛生活動、障害者施設歯科衛生活動)を通じて歯科衛生支援を行う	登録歯科医院・ 総合病院口腔外科 静岡歯科医師会 静岡県歯科衛生士会 静岡市内高齢者施設 各保健福祉センター 障害者歯科保健センター 歯科技工所 等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人鈴木学園教職員の研修実施要綱において、教職員は、団体・組織等との連携のもと、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能の修得・向上並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を図ることを目的として研修機会を確保し、計画的に受講し、研修後は学内での情報共有を図るとともにその成果を教育内容・教育方法に反映する。

(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	東海地区歯科衛生士教育協議会研修会	連携企業等: 東海地区教育協議会
期間:	令和7年度6月28日(土)	対象: 歯科衛生士専任教員
内容:	歯科衛生学の体系化に向けて 養成校の現状について	
研修名:	日本歯科衛生学学会	連携企業等: 日本歯科衛生士会
期間:	令和7年11月2日(土)～11月3日(日)	対象: 歯科衛生士
内容:	歯科医療DXでかわる 歯科衛生士の未来 知る・活用する・つながる	
研修名:	日本歯科衛生教育学会	連携企業等: 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和7年12月6日(土)～12月7日(日)	対象: 歯科衛生士教員
内容:	時代のニーズに応える歯科衛生学教育を考える～インターフェイスの視点より～	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	令和8年度東海地区歯科衛生士教育協議会	連携企業等: 東海地区歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月27日(土)	対象: 東海地区歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生士養成校専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発実証事業について	
研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅱ	連携企業等: 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月下旬～5日間	対象: 全国歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生教育全般における理解、実践能力の育成、豊かな人間性を養う	
研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅳ	連携企業等: 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年8月下旬	対象: 全国歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生教育におけるレベルアップを図り、自立性と専門性を高め、高度な知識、技術、態度を習得する	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	令和8年度東海地区歯科衛生士教育協議会	連携企業等: 東海地区歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月27日(土)	対象: 東海地区歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生士養成校専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発実証事業について	
研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅱ	連携企業等: 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月下旬～5日間	対象: 全国歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生教育全般における理解、実践能力の育成、豊かな人間性を養う	
研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅳ	連携企業等: 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年8月下旬～5日間	対象: 全国歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生教育におけるレベルアップを図り、自立性と専門性を高め、高度な知識、技術、態度を習得する	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	令和8年度東海地区歯科衛生士教育協議会	連携企業等: 東海地区歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月27日(土)	対象: 東海地区歯科衛生士養成所専任教員
内容:	歯科衛生士養成校専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発実証事業について	

研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅱ	連携企業等:	一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年7月下旬～5日間	対象:	全国歯科衛生士養成所専任教員
内容	歯科衛生教育全般における理解、実践能力の育成、豊かな人間性を養う		
研修名:	令和8年度歯科衛生士選任教員講習会Ⅳ	連携企業等:	一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
期間:	令和8年8月下旬～5日間	対象:	全国歯科衛生士養成所専任教員
内容	歯科衛生教育におけるレベルアップを図り、自立性と専門性を高め、高度な知識、技術、態度を習得する		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
【評価の方針】学生による学校、教員評価の結果と教職員による学校評価の結果、及び年間計画やカリキュラム、国家試験合格率、就職実績等の資料を基に当該年度の教育活動、前年度の結果を4.(2)にある項目ごとに評価する。評価に当たっては以下の点が守られていること。
 ・自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されていること。
 ・自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付された相対的な記載となっていること。
 ・学校関係者評価委員会が、主体的・能動的な評価活動が行っていること。
【改善等への活用方針】
 ・改善案は評価項目毎の評価を基に、学校関係者評価委員に改善の方針をできるだけ委員会内で示す
 ・学校関係者評価委員会の評価を参考に具体的な活用方法については学校内で別途検討する。
 ・改善した内容に関しては、職業実践専門課程様式4に基づいて毎年公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果・教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)教育の内部質保証システム
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 ①業務の効率化について
 ・学科会を定期的実施しBSCの振り返りを行う。
 ・事前に議題を共有し時間の効率化を図る。
 ・業務内容を精査し、「実施すべきこと」「実施しなくて良いこと」を明確化し時間内に終わる計画にする。
 ②教育活動について
 三島校とは姉妹校であるため、今後も共通認識を増やし、より高めあっていく。
 ③就職率、退学率について
 高評価であり継続していく。
 ④教育環境について
 ・実習を効率的に進められる様に器材の数などを見直す。
 ・歯科衛生士養成所ガイドラインの改正も視野に入れ将来を見据えた準備を進めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中野 清風	中野歯科医院・静岡歯科医師会	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	企業等委員
青野百華	専門学校中央医療健康大学校 歯科衛生学科11期生保護者	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	PTA
中山紗恵	医療法法人社団孝幸会 八木歯科	令和8年4月1日 ～令和9年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.suzuki.ac.jp/>

公表時期: 2026/6/1

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・本校関係者の理解を深めるとともに、連携や協力を推進するために教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名・所在地・連絡先
(2) 各学科等の教育	理念・教育方針・カリキュラム
(3) 教職員	教職員一覧(氏名、役職)(事業計画書内)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職実績・キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	事業計画書(教育目標・教育計画含む)・事業実績書
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況(事業計画書内)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項
(8) 学校の財務	貸借対照表 収支計算書
(9) 学校評価	学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.suzuki.ac.jp/>

公表時期: 2026年6月1日

授業科目等の概要

(医療専門課程 歯科衛生学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		生命現象の科学	生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を修得する。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○		基礎英語	英語の基礎を見直し基本的知識と技術を取得し「読む」「書く」「話す」を身につける。	1・前	30	1	○			○			○	
3	○		情報と社会	情報の特性を理解し、情報の享受に効果的なコンピューターの利用法について理解し、必要な情報を有効活用できるように、インターネットを利用した情報の収集、開示に関する基本的な知識、技能及び態度を修得する。また、情報と社会のかかわりについて、情報収集を行いまとめて発表できるよう、プレゼンテーションの基本的知識、技術、態度を修得する	1・前	30	2	○			○			○	
4	○		コミュニケーション論	患者や人とのかかわりの中で、信頼関係を築き、患者に寄り添う支援ができるために必要なコミュニケーションの考え方や心構えを身につけそのスキルを修得する。	1・前	30	2	○			○			○	
5	○		保健医療と行動科学	行動科学的発想とは何かを、不安や痛み、心身相関などの問題や患者のセルフケアの問題を考えることを通して学ぶ。同時に、行動科学的発想が臨床に必要な理由を理解し、患者の訴えを機能分析できるようになる。行動の原理について深く考え、患者の持つさまざまな問題に対する適切な指導方針を立てることを目指す。	1・後	30	2	○			○			○	
6	○		人体の構造と機能	人体の構造と機能、また組織・発生について概要を理解する。	1・前	45	3	○			○			○	
7	○		歯と口腔の構造と機能	口腔とその周囲組織の構造と機能について理解する	1・後	45	3	○			○			○	

19	○		歯科衛生学 総論	歯科衛生を实践して人々の健康づくりを支援する者となるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度及び論理的思考法の基礎を修得する。	1・前	30	2	○			○		○				
20	○		歯科予防処置 I	歯周疾患の発症・進行・予防についての基礎的知識を習得し、歯周疾患の各種検査法、予防的歯石除去技術の基本的技術の習得する	1・通	150	4	○		△	○		○				
21	○		歯科保健指導 I	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するためにプロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの支援者になるための基本的知識・技術および態度を習得する	1・通	120	4		○		○		○				
22	○		歯科英語	歯科診療室で必要とされる語学（英語）の基礎力を身につける。英会話の基礎的知識を習得する。	2・後	30	1	○			○						○
23	○		保健情報と 衛生統計	歯および口腔の健康と予防に関わる保健情報を把握し、保健統計の手法によって問題解決を図る。	2・前	30	1	○			○						○
24	○		保存修復・ 歯内療法	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、診断及び治療法の基本を理解する。	2・前	30	1	○			○						○
25	○		健康と地域	生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養う。	2・前	20	1	○			○						○
26	○		歯周疾患療法	歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、診断及び治療法の基本を理解する	2・前	20	1	○			○						○
27	○		歯科補綴	歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合の修復方法を理解する	2・前	20	1	○			○						○
28	○		歯科矯正	不正咬合の治療意義と診断および治療法の概念を理解する。	2・前	20	1	○			○						○
29	○		インプラント	口腔インプラント学の概論 又、その中で歯科衛生士の役割を理解できるようにする	2・後	20	1	○		○	○						○
30	○		口腔外科・ 歯科麻酔	【口腔外科】口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断および治療法の概念を理解する。 【歯科麻酔】歯科治療における全身管理・精神鎮静法・局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する	2・前	30	1	○			○						○
31	○		小児歯科	小児の身体的・精神心理的特徴と、小児の歯科診療上の留意点を理解する。	2・前	20	1	○			○						○
32	○		高齢者歯科	高齢者の身体的・精神心理的特徴と歯科治療上の留意事項を理解する。	2・前	20	1	○			○						○

44	○		歯科診療補助Ⅱ	高度歯科医療に対応するために、歯科臨床学における専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識・基礎技術および態度を身につける。処置における各種検査法、治療手順、使用器材について実践できる知識、技術、態度を修得する。	2・通	120	3		○	△	○	○					
45	○		歯科衛生教育Ⅱ	臨地臨床実習における歯科衛生教育活動の知識の整理と現場における歯科保健指導の知識技術の応用を修得する	3・後	30	1	○			○	○					
46	○		歯科予防処置Ⅲ	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持増進させるために、歯科衛生士としての専門的な知識・技術および態度を修得する	2・前	75	2	○	△	○	○						
47	○		歯科衛生士と法律・制度	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生士のあり方について考える態度を養う。	3・後	30	2	○			○						○
48	○		基礎歯科医学総合	臨床実習における基礎知識の復習及び臨床症例における基礎医学知識の再確認を行い、臨床における応用を目的とした知識の習得	3・通	30	1	○				○					○
49	○		臨床歯科医学総合	臨床実習における臨床歯科医学の知識の整理及び臨床症例における臨床歯科医学の応用と統合された知識の習得	3・通	30	1	○				○					○
50	○		歯科診療補助Ⅲ	高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科神慮のの補助に関する基礎知識、基礎技術および態度を身につける。なお歯科医療における医療管理、災害時歯科医療における歯科衛生士の役割を学ぶ	3・通	90	3	○			○	○	○	○			
51		○	卒業研究Ⅱ	歯科衛生士業務または歯科衛生に関わる事象について各自の疑問や興味を持つ事柄において、テーマを選択し、計画立案に基づいて研究を実施し、その結果をまとめることにより、科学的思考や問題解決の能力を養う。	3・通	90	3				○	○	○	○			○
52	○		歯科衛生過程Ⅱ	人々のニーズに合った歯科衛生支援を行うために、論理的に思考し、問題発見および解決できる知識技術を習得する。	3・前	45	1		△	○	○	○	○				○
53	○		歯科予防管理法	歯科疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術および態度を修得する。 1) う蝕・歯周疾患予防のため歯科疾患のリスク判定とそれに応じた予防法についての知識・後術を学ぶ 2) 歯科疾患予防管理の知識の整理と復習及び臨床ケースに対する応用法を学ぶ	3・通	60	2	△	○		○	○	○				
54	○		臨床実習Ⅰ	・歯科医院における見学実習を行い、歯科治療の流れ、歯科衛生士の役割を概要を学ぶ ・地域歯科保健活動（歯と口の健康週間行事）に参加し、地域における歯科保健活動を学び、多職種との協働を学ぶ	1・通	45	1				○	○	○	○			○

55	○		臨床実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医院における診療の流れを理解し、各診療の介助を実践し、歯科臨床を学び、歯科衛生士業務の基本動作および態度を修得する。 ・ 地域歯科保健活動（歯と口の健康週間行事、学校歯科衛生活動、障害者施設歯科衛生活動）を通じて歯科衛生支援 	2 ・ 通	180	4			○	○	○	○
56	○		臨床実習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校内で習得した知識や技術について、歯科医院及び地域保健の現場で実践し歯科衛生士業務の知識及び技術を修得する ・ 地域歯科保健活動（高齢者歯科衛生活動）を通じて歯科衛生支援 	3 ・ 通	675	15			○	○	○	○
合計					56	科目	112 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学則に定められた授業時間出席していること ・ 定期試験に全て合格していること ・ 学費を全て納入していること 	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	・ 学則に定められた時間数を対面方式にて実施。	1 学期の授業期間	18 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。